### 更新公道 No.137 発行:更新伝道会

【ウェスレー回心記念日集会】

開会礼拝説教

ローマの信徒への手紙

五章一~五節

史 会

> が、これは幸いにも石原謙先生訳 たルターの『ローマ書序文』です

会長 大村

委員長 編集

Tel ○三(三三三八)七九七三 中野区白鷺二-四七-一○三五

聖徒教会牧師 松

「練達は希望を生む」

睦

三十五歳直前のその日 ウェスレーの劇的回心の日である 小集会場に集まっていたヘルンフ のアルダスゲート・ストリー あったというのです。ウェスレー 年五月二十四日、当時は水曜日で ことは周知のことです。一七三八 ト兄弟団の敬虔な人たちが聖書 本日の五月二十四日がジョ ロンドン

> す。 あげて「信じたよ」と報告したとい チャールズ・ウェスレーに歓声を 解するに至った」というのです。こ 物であって人間の力で獲得するこ とを確認し、さらに聖化も神の賜 だキリストによって義とされたこ スレーが「不思議に心が燃えた。た たといいます。それを聞いたウェ 『ローマ書への序文』を朗読してい 出席したというのです。ルターの トの集会が守られてきたわけで スレー回心記念日としてメソジス います。以来五月二十四日をウェ れが彼の回心であり、即座に弟の との出来ないものであることを理 研究をしていた所へウェスレーも

ウェスレー 0 回心の動機となっ

の回心ではなくて、

その源流はロ

います。「おお父よ、怒りと地獄の

な歌を祈りとして神さまに捧げて

底にある「神さまに反する不従順 ド」が散りばめられていることで それは随所に「ルター的キーワー 仰によって義と認められるという によって救われ、 根にイエス・キリストの十字架の けたのです。ルターも自らの心の の根」における回心を終生求め続 と表現しているのです。ウェスレ の性質」を「心の根にある不信仰 ある」と。つまり我々人間の心の奥 ている」さらに「心の根に不信仰が 深くの根において「悔改める」、あ 根」という言葉を十回も使ってい す。例えばルターはその中で「心の ある特徴に気付かされる本です。 で日本語で読めるのです。これは 心は自己流の身勝手な独りよがり してルターもウェスレーもこの回 全くなくただ主イエスを信ずる信 ト主イエス・キリストの贖罪行為 贖罪の恵みをお迎えし百パーセン ーも心の奥底での回心、劇的な「心 たもう」とか「律法は心の根を求め るいは「心の根に従って神は裁き ます。心の表面ではなくて心の奥 「信仰義認」に至ったわけです。そ 我々には功績が

> ーマ書にあるのです。つまり 口に起源があるのです。

罪の恵みによって私たちの心は混 が私たちを支配するのです。 すので神さまとの平安なる安らぎ 主イエスの贖罪愛が注がれていま 根」ということです。心の根っこに れている」と五節で語っています 出す愛が横たわっています。パウ 主イエスの贖罪行為には命を投げ れた心に変えられるのです。この 乱せる無秩序な心から平和な心 主イエス・キリストの十字架の贖 している」と語るのです。私たちの られ神の栄光に与る希望を誇りに 今の恵みに信仰によって導き入れ だから、私たちの主イエス・キリ 宣言しております。「このように私 が、この「私たちの心」とは「心 よって神の愛が私たちの心に注が 口は「私たちに与えられた聖霊に つまり神さまから安らぎを与えら ており、このキリストのおかげで ストによって神との間に平和を得 たちは信仰によって義とされたの ウェスレーは回心後、 今日私たちの与えられましたロ マ書五章一節でパウロは堂々と 次のよう

よう。

イエスは罪人に対して心を

変えたまわず」と。主イエスは御自

身の心の根っこのところで私共罪

| 子たりし我さえも神の子供と呼び

たもうとは何と幸いか。我、

「罪人

の友である主イエス』を世に伝え

ことが出来るのです。

私共の人生

横の片棒を僭越ながら私共も担ぐして背負えるからです。十字架の

| 人への愛をお変えにならないので| 人への愛をお変えにならないので

ちの心の根に働きたもうて主イエ がお受けになる患難を私共も共同 れるのです。なぜならば主イエス むしろパウロも主張するごとく誇 スの愛を封入したもうのです。 のなせる業です。聖霊こそが私た 愛の叫び」であります。全ては聖霊 ったといいます。「汝らは恵みによ おこないました。これが以後ウェ たり」という主題の有名な説教を は恵みにより、 オックスフォード大学にて「汝ら の根において響く、「ウェスレーの 時私たちは患難を恐れません。 レーの全伝道の生涯の基本であ ウェスレーは回心後十八日目に 信仰により救われたり」とは心 信仰により救われ そ

の苦難は自分一人のものでありません。見えざる所で、いやその苦しみの根っこの所で主イエスが苦しんで下さっているのです。本来、高きにいます方が私共の下になってくださり苦難を共に担って下さるのです。人生最大の光栄です。従いまして患難は忍耐を生み出し、忍まして患難は忍耐を生み出し、忍は傾達を生み出し、練達は希望に至るのです。練達とは「心がぐらつかない」という字です。心の根が

ットを正しく受け継いで伝道に励いていたのでしょう。このスピリいのです。恐らくジョン・ウェスレーの「世界はわが教区なり」の合言葉にはこの心の根に聖霊を通しての神の愛がしっかり根付き信しての神の愛がしっかり根付き信しての神のでしょう。このスピリいていたのでしょう。このスピリいていたのでしょう。このスピリットを正しく受け継いで伝道に励いていたのでしょう。

# カナダ・メソジスト婦人宣教師の物語「神の御声をきいたなら―更新伝道会 ウェスレー回心記念日集会

んでまいりましょう。

演

講

佐藤順子



にカナダ・メソジスト教会から派一八八四年創立の東洋英和女学院わたしが求道を始めたのは、高

にのぼる。彼女たちはみな高い教育を受け、教育現場での経験と実育を受け、教育現場での経験と実育する有能で自立した女性たちで信する有能で自立した女性たちであった。彼女たちの事績を纏めたあった。彼女たちの事績を纏めため語』(東洋英和発行)から話をし物語』(東洋英和発行)から話をしたい。

の婦人宣教師派遣の必要性を聴く第一代校長カートメルは日本へ

八八四年に東洋英和女学校は開校

の信頼を持っていたのである。

した。また日本人による日本人伝

れて確信をもって決断する信仰 が思わぬ不思議な仕方で与えられ り、父母たちがキリスト教への道 道のためには寄宿学校が必要であ の必要を感じ、またキリスト教伝 であった。英語や聖書を青年たち さい』と祈り続けていた。」と書い あなたは私の全てをご存じです。 召命を経験した。私はただ、『主よ、 と、これを深く心に留め召命につ べてを導いてくださるという神 の御声を聞き取り、 た。彼女は折に触れて神に祈り、神 に必要な土地とその代金は、 人ミッションに訴えた。 を見出すことにもなると確信する に教えているうちに女性への教育 れ、一八八二年十二月来日。三七歳 で日本伝道の宣教師として任命さ ソジスト婦人伝道会社第一回年会 ている。ついに彼女はカナダ・メ たのなら、どうぞ私を遣わして下 私が夢ではなく本当に御声を伺っ いた。「私は祈りの内に幾度か強 いて考え、神の御心を尋ね続けて に至った。彼女は熱心にカナダ婦 自分を用いてくださる神がす そこから導 学校建設

更

を助け、

三度目の来日では主に婦

師として働く傍ら顧問として校長 で帰国。二度目の来日後は英語教 新

の罪を許し、

この事件が日本の国

一号であり、

教育も伝道も

道が必要との考えから、反対や偏 していた。 感じ、宣教こそ使命であると確信 ッセージ」を伝えることに喜びを 仕える愛の心を育てられそのよう 悔い改めつつ前へと進んで行っ 女はどのような時にも聖書の言葉 れ愛されて四年間を過ごした。 教育活動に専念し人々から尊敬さ 国したが再び来日し、甲府で伝道 を崩して後をスペンサーに託し帰 ルウーマン養成に努力した。 見にも拘らず信念を貫いてバイブ で励まされ、慰められ、示唆を与え に生きていた。聖書の「神の愛のメ れ、力を得てきた。聖書の言葉で 聖書によって謙遜に他の人に 彼

自身も重傷を負った。彼女は犯人 に英和の勢いを衰えさせた。 強盗によるラージ氏斬殺事件が更 スト教学校も危機に瀕し生徒数は 国粋主義、 化主義やキリスト教リバイバル運 と結婚して一人娘を授かった。 長となり、その二年後にラージ氏 《少。東洋英和で起こった二人組 が味方して学校は発展したが、 ・ラージは来日して間もなく校 第二代校長イライザ・スペンサ 国家主義の台頭でキリ 校長 欧

る。 答えた人の生き方そのものであ る。 きていたことを知ることが出来 Ļ どのような時にもキリストを証し 感謝する。」と書いている。ラージ 見て深く喜ぶ。また神が私たちを 私たちは神の栄光が表れたことを 神を慕い永遠の命を望むならば、 頂いた勇気とを見て、兄弟姉妹が 礼状に「もし夫の死と、私が神から であるようにと切に祈り求めて生 の神への全き信頼と自らの存在が もって御力を世に示されたことに の祈りをしたという。弔慰金への の幸いになるように神に執り成し その後校長職を次に譲り休暇 人々をキリストへと導くもの 神の御声を聞いてその召命に

関わり、 した。 生 遊 禁煙や売春婦救済のために全国を 人矯風会の運動に関わり、禁酒 日本のキリスト教学校の存立を ・助産施設「慈愛館」の業務にも 一説し、婦人矯風会が建てた更 女性の福祉のために尽力

三二年)に出された文部省訓令十 危うくしたのが、一八九九年(明治 それはラージの後第 うべきだと書いている。 らし物や環境を整えても、 とをもって幼稚園の真の成功と思 自身がキリストの光の中を歩くこ

生徒を一人の自立した人間とし リスト教教育を貫くことを決断 学校に準ずるように高等科を設置 風で建築中の校舎が二度も倒壊し であり、聖書にこそ真の生きる力 た人格として育てることこそ重要 に仕え、神の前に謙遜で愛に満ち て、自己を尊重し他者を愛し他者 するなどして教育体制を整備しキ 教育を捨てて国の認可学校として 代校長の時であった。キリスト教 三代校長になったブラックモア 希望をよみがえらせたのであっ す。恵みの虹を信じましょう。」と たが、彼女は「雨の後には虹が出 大切であると結論付けたのだ。 が宿っていることを伝えることが た。聖書の信仰とその言葉により たが、各種学校になっても認可女 校になるかの究極の選択を迫られ 言って落胆していた皆の心に再び 存続するか、それを守って各種学 (第七、十、十四代も歴任) が第七 をしていなければ、 きキリスト者としての証しの生活 者・伝道者自身が主の光の中を歩

して付属幼稚園を設立したのもブ ラックモアである。彼女は指導者 た。一九一四年、創立三〇周年を期 工夫を凝 教育 路の最後まで希望と理想を持ち続 英和女学校の第二代校長や東京女 返るのではなく未来に目を向けて 築がなされて現在の英和の基盤が ヴォーリズ設計の近代的新校舎建 東洋英和の校章・制服・学校標語 歳で引退し帰国した。 子大学第二代理事長も務め、 倣う生徒や人々が多く出た。 者への愛の心と行いは多くの人々 の支援活動等に励み、いと小さき 矯風会での女性の解放と地位向 を学ばせた。またキリスト教婦人 生徒たちに手伝わせて奉仕の精神 か。学校近くに永坂孤女院を建て、 真の目的を達成することはできな は過去にではなく未来にある。 モアもある卒業式で「最上のもの 前進することを説いた。 ルトン(第十五代も歴任)の時代に に深い感銘と感化を与え、それに 上、社会福祉施設興望館設立やそ いことを示唆する言葉ではない 敬神奉仕」・校旗・校歌の制定 昭和に入り、第十七代校長ハミ ハミルトンは、 [められた。創立五○周年にあた ただ過去を振 ブラック

けて進んで行く者であれ」と生徒 進向上する精神は宣教師方に共通 を励ました。未来に目を向けて前 するものである。

太平洋戦争が勃発すると帰国

としての任務を全うしたのであ の信念を貫いて三〇年間の宣教師 ト教保育者養成に尽力した。「教育 保育科の初代主任に就き、 洋英和に戻り英語教師の後、 本人救出の活動等に参加して両国 子弟の教育、各地での講演、抑留日 根本は神を知ることにある」と [梨英和の復興に尽力。その後東 親善に尽くした。戦後再来日し 日本人強制収容所内で日本人 キリス 短大

た仕事」とか「何よりも喜びと誇り 「天職」と訳され、「自分に最も合っ 止めていた。Calling は一般的には ている。彼女達は自分の仕事を「神 仰は日常生活における実践的具体 を持っていたこと、彼女たちの信 たこと、自分の仕事に情熱と喜び と、人々に感化を与える徳があっ せ持つ自立した女性であったこ らが一様に強さと優しさとを合わ からの召命=calling」として受け 2なものであったことなどを伝え 四人の宣教師達の物語は、 彼女

> 者はみな、 る時、 ingという場合、それは「自己の利 ٤ 女たちの物語は教えている。 を備えて導いてくださることを彼 き取り、神を信頼してその声に従 すものである。神の呼びかけを聞 召され神から託された務めを果た であることを意味する。キリスト の利益のため」そして「神のため」 益」を超えて「他者・人類社会・公 しかし本義は「神から呼ばれるこ 事」というように受け止められる。 を感じられる自分にふさわしい仕 一神の召し」である。仕事を call-神のために働き生きようとす 神はそのために必要な全て 神によってその仕事に

うに、 とを証ししながら共に歩んで行き しいモラヴィア派の信徒たちのよ ることを信じて歩きたい。 音前進のために私達を用いて下さ いる事を改めて喜びたい。神は福 信し、使命を与えられ生かされて 各自に与えられた回心と救いを確 日に当たり、神の深い愛に感謝し、 る確固たる信仰を常に祈り求めつ ジ 「信仰こそ勝利の力」であるこ ーョン・ウェスレーの回心記念 神の完全な愛を純粋に信じ あの貧

> 悼 追

小林貞夫兄を偲ぶ 1〇二二年一二月 二日逝去

大

村

栄

阿佐ヶ谷教会牧師

八十二才

年四月一八日、 市で生まれた。父は盲人で治療院 ご夫妻の長男として、現在の山梨 を営み、母は助産婦だった。 小林貞夫兄は一九二九 (昭和四) 小林全二・みする

声をあげた一八七九(明治一二)年 立四五年、設立三〇年の年だった。 八九九 (明治三二) 年を 「設立記念 ジスト教会に設立が認められた一 を「伝道開始」の時とし、日本メソ 結城無二三牧師が郷里伝道の第一 としているが、その五年前に、初代 れたのは、伝道開始五〇年、教会創 日」としている。小林貞夫兄が生ま 島信明兄)が与えられた一八八四 (明治一七)年七月を「創立記念日. その年は賀川豊彦の「神の国運 日下部教会は、最初の受洗者(飯

> 二名の受洗者があった。 や平日や夜の集会においても次々 曜の礼拝だけでなく、 前の年に五八名の受洗者が と洗礼式を行い、年末までに一〇 て、相当な困難が予想されたが、日 組会の席上 あ っ

を受けたのが二才の小林貞夫兄と 集会において、 その母であった。 歳末近くの十二月二五日に夜の 小野牧師より洗礼

年間、 び、一九五一年以来三九年にわた 書記長を勤めた。 動にも参加し、一九六一年から三 物の教師として勤務した。組合活 師範学校(現在の金沢大学)に学 校で学んだ後、貞夫兄は金沢高等 って山梨県立高等学校数か所に生 地元の日下部小学校、 日本高等学校教職員組合の 川 中学

嗣兄が生まれた。 牧師の長女忍姉と結婚。 六○年に富士吉田教会の小池章三 一九五五年に石和に転居。 信嗣兄、 一九

者を生み出すことを目標とした。

しばらく富士吉田の高校に勤務

の名のもと、

年間一〇〇名の受洗

野善太郎牧師を中心に「百人救霊

会では二年後の一九三一年に、小 伝道が盛んに行われた。日下部教 動」が全国的に展開し、山梨県でも

常

メソジストの伝統を愛し、

その

更新伝道会の活動にも早くから参 伝道のスピリットを尊ぶゆえに、

のため転居した時期を除いて、 新しいスタイルを築いた。 恩寵』を執筆し、教会史の書き方に めた。一九七九 (昭和五四) 年には 学校教師を勤め、校長も長くつと に日下部教会の幹事 (役員)、教会 ○年を記念する『笛吹に注がれた 日下部教会伝道一〇〇年、 、設立八

年)を勤めた。 準備委員長(二〇〇七~二〇〇九 テスタント伝道一五〇年記念事業 長(一九九四~二〇〇六年)、プロ 期つとめた。その間に年金局理事 日本基督教団常議員を、連続十五 員を何期も務め、一九八八年以降 全体教会では東海教区の常置委

亡くなる直前まで続け、二〇一三 年一月号が絶筆となった。 録教団紛争史』(二〇一一年) とし とめたものが、『日本基督教団 回にわたって執筆、これを後にま をつとめ、 て発刊された。また連合の教案誌 参加し、 !中高科の教案を一九九○年から 九八八~二〇〇七年まで二〇〇 福音主義教会連合に発足時から 一九八七年以降常任委員 機関誌にコラム記事を 実

> 号に掲載 と主張した。(「更新伝道」誌一二九 令に立ち帰って伝道するべき時だ は、その「洗礼をさずけよ」との命 て、 中で受洗したという原点に立っ 自分が日下部教会の「百人救霊」の 加した。二〇一〇年の第三九回大 さずけよ」に集約されると言い、ご を授け、教えなさい」は、「洗礼を ての民をわたしの弟子とし、洗礼 八章キリストの大伝道命令「すべ と題する講演を行った。マタイ二 会において、「メソジストに生きる 結城無二三・小野善太郎ほか」 日本のキリスト教会は、 、教団

> > 追

深

町

正

信

青山学院名誉院長

語られた。 らメソジストの「礼拝と賛美によ ったのが最期であった。ベッドか 十一月二十日に甲府の病院に見舞 た。その後お具合が悪いと聞いて、 康が理由であることは隠してい になることを辞退した。 る伝道」を尊重してほしいと熱く |団総会に向かって、常議員候補 小林兄は二〇一二年の第三八回 しかし健

た。感謝は尽きない。また私の父大 村家のルーツでもある日下部教会 ソジスト・スピリットを教えられ 私は一九八六年から十年間 小林さんや多くの信徒方にメ 大

重ねることができました。

一九七

○年には「敬和会のたより」を編集

最初はがり版刷りの三〇部で

理解とご協力を得て、その会合を

多喜彦先生等、

多くの先 生方の御

珍しかった日本語の点字を身に着 の父上小林全二兄から、当時まだ 村善永がかつて失明時に、貞夫兄

事柄への感謝も覚えている。 けるよう勧められたという、

### 悼 房子姉妹 信仰と奉仕の生涯を顧みて」

0



居坂教会 本キリス 子姉は日 の教会員 ト教団鳥

木山

彼女は色々と励まされ、一九三七 なりました。同年に、木山正義氏と により洗礼を受け、 ミス・ハミルトンが校長のとき 丈学院にて学び、青梅寮に生活し、 のもとに召されました。東洋英和 生涯を走り終え、平安のうちに主 年一〇月九日に、 れました。二〇一二年(平成二四 力強い信仰の証しの人生を全うさ 生活を送り、教会への良き奉仕と メソジスト教会で、 として、又役員として、忠実な教会 - (昭和一三)に、その当時 地上九四年間の キリスト者と 浜崎次郎牧師 この麻布

> 結婚し、 当時の東洋英和丈学院の院長、 した。この会は「敬和会」と称し、 庭のため、教会の聖日礼拝に出席 理解と協力を得て、 野先生にご相談のうえ、 ことが大切だと考えました。 太田俊雄先生、野呂芳雄先生、 日礼拝」を開くことを始められま し難い多くの姉味方のために「週 の必要を強く感じ、また、主に祈る にこそ、聖書の言葉に触れる機会 山姉は人生の子育ての大変な時 とご苦労を経験されましたが、 を与えられました。戦時下は、 一人の男子と六人の女子 日曜日には家 幼稚園 その Щ. 色々

したが、その後、会員の協力によ

更新伝

期もつとめられた) 謙遜な笠原姉 神を畏れ人を愛し(婦人会長を四

している。 ておられて、

私共も共に主に感謝

大会もウェスレー記念礼拝も忠実

特に、東洋英和丈学院の宣教師た 派な会報を東洋英和丈学院の教職 り、十七年間、毎号五〇頁程度の立 ちの業績、その書簡、日記等が福集 員、生徒の全家庭に配付しました。

> されています。 きく寄与しました。この会は現在 ジスト婦人宣教師物語』発刊に大 掲載され、それらは『カナダ・メソ も「虹の会」と改称、引き続き活動

# 笠原康子姉の想い出

悼

追

鵜 餇 栄 子 銀座教会信徒



拝・聖餐 開 道会の青 の大会の 山学院で 会 礼

のは、 も拘らず、早くから見えて青山学 員として良く理解され、 して下さったことを心から感謝 院本部の方達と御相談し乍ら準備 して重責を負っている姿を教会役 で御奉仕下さった。鵜飼が会長と 方で、最近二十年位、笠原姉は喜ん 式の準備に黙々と当って下さった 主の御栄光をほめたたえる者 、九段、 安藤記念、銀座の姉妹 御遠方に

> 物で満たされるからである。(詩篇 魂を満ち足らせ、飢えた魂を良き

〇七篇九節)』」と書かれている。

週 え、 葬儀には礼拝堂一杯の人々が見 天された。長山牧師司式による御

献金(寄付)

堀川樹、

、岸田

紀

木信弘、

永吉章三

、康子姉の遺徳をお偲びした。毎 御主人が礼拝に静かに出席し

沢山の主の御用の中で突然、

御召

なの。」と常に感謝しておられた。

てて下さいました。『主はかわいた め、慰め、忍耐の限りを尽くして育 羊を神様は御言をもって責め、 す。・・・欠けの多い、手のやける ٤ 集(一九九○年一二月発行)による である。 ら感謝の気持ちでいっぱいで で養われ、 と、「百周年の三分の一をこの教会 神様の恵みと愛と導きに心か 銀座教会の百周年記念証 今日あるをおもいます 戒

思われる。康子姉は青年会時代に 考えられない力強い行動力は御言 生園、 ず出席され、各諸島の集会にも参 常に積極的に学ぼうとされてい 仕の業に励まれた。「主人のおかげ 聖書を読み祈りを合わせ喜んで奉 結ばれたご主人と二人で、朝毎に に裏打ちされ押し出された賜物と たハンセン病病棟訪問にも長島愛 加され、私も八丈島に二回、御一緒 にも、伊豆七島伝道協議会にも必 教会の中でも役員として支区活動 の敬虔を身につけた姉妹と思う。 た。メソヂスト教会の特徴、良き徳 てからは全体委員会も参加された に出席されて、常任委員になられ 参加された。あの小柄なお体から した。銀座の百年記念に企画され 他、沖縄の名護や宮古島にも

## 会計報告

更新伝道会に会費を納入された方

会費 (個人) 山田喬夫、 Ш 浸茂 ①二〇一三年三月一日~三一日

献金(寄付) 会費 (法人) 弘前教会、渋谷教会 静岡教会

誌代

弘前教会

# ②二〇|三年四月|日~六月二〇日

四月

会費 (個人) 子、 田光夫、岸貞子 大橋 海老名 民喜、一瀬 和子、 弘 阿部志郎、富士松武 小島 啓史、斎藤 土

献金 和子、大塚 安津子 冨士松 武子、斎藤 始、 瀬

五月

会費 (個人) 佐久本正志、 三木信弘、永吉章三 西田寛子、岸 憲秀、 堀川樹 石渡伸一、伊澤しの 岸田 岸 恵

六月

会費(個人) 田中霞 高橋はつ、澁谷弘祐、 霞

献金(寄付)

田中

### 2013年度役員、常任委員、委員

会長	大村 栄	阿佐ヶ谷	教職
副会長	石渡 伸一	聖徒	信徒
副会長	岸 憲秀	千葉本町	教職
書記	岩本 聖史	白鷺	教職
会計	中井 幸夫	安藤記念	信徒
会計	西田 寛子	鳥居坂	信徒

顧問	深町 正信	クラーク学園	教職
顧問	佐野 英二	安藤記念	教職
顧問	真壁 勝一	隠退	教職
顧問	藤村 和義	渋谷	教職
顧問	玉野 保美	安藤記念	信徒
顧問	角谷 貞夫	安藤記念	信徒

常任委員	石丸 泰樹	小石川明星	教職
常任委員	伊澤しのぶ	九段	信徒
常任委員	伊藤 瑞男	大泉ベテル	教職
常任委員	鵜飼 栄子	銀座	信徒
常任委員	梅津 裕美	本多記念	教職
常任委員	江渡 信行	相模原	信徒
常任委員	大三島 義孝	碑文谷	教職
常任委員	勝山 健一郎	竹岡	教職
常任委員	G. W. ギッシュ	隠退	教職
常任委員	金 明淑	甲府	教職
常任委員	清弘 剛生	頌栄	教職
常任委員	黒田 毅	武蔵豊岡	信徒
常任委員	高 承和	聖和	教職
常任委員	小宮山 剛	逗子	教職
常任委員	坂井 賢治	片倉	教職
常任委員	佐藤 安彦	無任所	教職
常任委員	角谷 多美子	安藤記念	信徒
常任委員	高田 和彦	九段	教職
常任委員	千原 創	八王子ベテル	教職
常任委員	辻川 篤	相模原	教職
常任委員	土屋 利子	銀座	信徒
常任委員	中村 謙一	亀戸	教職
常任委員	長山 信夫	銀座	教職
常任委員	永吉 章三	千葉本町	信徒
常任委員	林 牧人	西新井	教職
常任委員	張田 眞	鳥居坂	教職
常任委員	富士松武子	銀座	信徒
常任委員	布施 英雄	頌栄	信徒
常任委員	真壁 巌	相愛	教職
常任委員	松木田 博	甲府	教職
常任委員	森 研四郎	鎌倉	教職
常任委員	山田 喬夫	無任所	教職

委員	石田 聖実	尾陽	教職
委員	一瀬 和子	九段	信徒
委員	伊藤 忠彦	和泉短大	教職
委員	伊藤 地塩	隠退	教職
委員	鵜崎 庚一	碑文谷	信徒
委員	江原 淳	隠退	教職
委員	大島 栄一	相模原	信徒
委員	大橋 弘	隠退	教職
委員	加藤 孔二	北広島	教職
委員	金附 正夫	八千代台	教職
委員	川俣 茂	清教学園	教職
委員	具志堅 篤	読谷	教職
委員	小出 直久	銀座	信徒
委員	小林 克哉	呉平安	教職
委員	斎藤 孝	碑文谷	信徒
委員	佐々木 美知夫	静岡	教職
委員	佐藤 千郎	隠退	教職
委員	佐久本 正志	戸山	教職
委員	篠田 真紀子	無任所	教職
委員	嶋田 順好	青山学院	教職
委員	下田尾 治郎	田浦	教職
委員	瀬下 羔子	経堂緑岡	信徒
委員	竹内 郁夫	隠退	教職
委員	田添 禧雄	隠退	教職
委員	土戸シュー・ポール	青山学院大学	教職
委員	東方 敬信	青山学院大学	教職
委員	中村 民男	隠退	教職
委員	鳴坂 明人	横浜磯子	教職
委員	野村 誠	共愛学園	教職
委員	原 裕	天童	教職
委員	平松 実人	大井	教職
委員	松井 睦	聖徒	教職
委員	三河 悠希子	活水学院	教職
委員	宮庄 博	松山番町	教職
委員	三木 信弘	北広島	信徒
委員	森里 信生	隠退	教職
委員	山内 一郎	無任所	教職
委員	山口 文恵	広尾	信徒
委員	米山 恭平	広尾	教職

### 第 42 回更新伝道会大会

### 「世界のメソジストに学ぶ」

~グローバルな視点から~

2013年8月26日(月)13:30~20:00/27日(火)9:00~12:30

会場:青山学院大学本部礼拝堂、総研ビル大会議室

### 8月26日(月)

### 講演I

一日本語教会の礼拝を通して見た「メソジスト教会の4本柱 Quadrilateral」 現代に置かれるメソジスト教会の宣教の歩み



講演 | 相良昌彦先生

### 相良昌彦先生

(青山学院高等部宗教主任)

### 証しの夕べ

山口文恵 姉(広尾教会員) \*4 ミョンスタ **金 明淑先生**(甲府教会)

8月27日(火)



講演 || 柳 聖俊先生

講演Ⅱ

「メソジスト更新のためのまことのリーダーシップ」

柳 聖俊先生

(韓国・協成大学チャプレン)



〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

### お問い合わせ

坂井賢治

(片倉教会牧師・準備委員長) TEL: 042-689-4114 / FAX: 042-637-4060

### 岩本聖史

(白鷺教会牧師・更新伝道会書記) TEL: 03-3338-7973 / FAX: 03-3223-1256

### 参加費

両日参加 5,000 円 (夕食込み)

1日のみ 2,000円 (夕食プラス 1,000円)

※遠方からの会員には応分の補助をいたします。ご希望の方はお申出下さい。

### 主催 更新伝道会

議 出題 席:

(1) ウェ

スレ

回

心

記

念集

八名

場所:銀座教会

[時:五月七日(火)午後二

一時

5

四

久山康彦先生 日に召天。 金井次夫兄 ジスト教会。 御慰めを祈る スト・ロサ 女ジェニファー メソジスト教会・米国) 告別式、七月二七日(土)、 御遺族の上に主より (九八歳) ンゼルス合同 (センテナリ あ が、 41 六月 姉 が 0 ウ 召 御

きに、 感謝 先生と前副会長藤村和義先生 常任委員会後、 エ 会が行わ スレ 同 1 一四教会出席。会場を提 回心記念日集会は、 心より感謝し 前会長佐野 両先生の お働 英

供された聖徒教会に感謝した。

員選出 会大会、委員長:坂井賢治 今年度予算については承認。 次年度予算を検討 |常任委員会にお 委員長:張田眞 (4) その他報告。 2 (1) て出 更新伝道 3 版 0 た 次

一〇一三年第二回常任委員会議事録

書記報告